

○青木邦博建設課長 それにつきましては、まだ進行中でございます。

○渋谷佐輔議長 11番、小関秀一議員。

○11番 小関秀一議員 あと、先ほど建設参事からありましたMD計画の説明であります、基本計画は一般的な道の駅の計画の収支であったと、しかしながら、今回は具体的な長井市の収支計画、つまり菜なポート等の実績を踏まえてということではあります、本当にそんでいいのか。

私、基本計画の物産なり産直の部分も含めて非常に細かい数字をあのときいただいて、年間1,000万円前後の収益が黒字になるというふうな説明を受けておるわけですが、全く一般的な道の駅の計画ではなかったというふうに私は認識しております。いかがですか。

○渋谷佐輔議長 横山賢一建設参事。

○横山賢一建設参事 お答えいたします。

このたびのMD計画提案につきましては、あくまで観光交流センターの機能と密接にかかわる部分がございますので、実施設計の委託会社のほうを通しまして提案していただいたというふうな計画でございます。

当初、その基本設計の基礎調査の部分につきましては、想定部分が道の駅というようなところでございまして、詳細な部分につきましては積算しているところではございますが、比較というふうなところにつきましては、あくまでもそういうふうなところで、MDのほうの計画につきましては都市再生整備計画事業に適合できる計画というようなことでご提案いただいたところでございます。

議員おっしゃるように、お話のように基本設計の部分につきましては、そういうふうなことで収益が見込めるというふうなところもございます。実際、観光のところでは年間の来場者数等々を見ますと、やはり約40万を超える人を見込めるというふうなところもございますので、

そういうふうなところを念頭に、また売り場面積のほうもそれに比例したところを出させていたいただいたというふうな数値というふうには捉えておりますので、その点よろしくお願ひしたいなと思っております。

○渋谷佐輔議長 11番、小関秀一議員。

○11番 小関秀一議員 これからさまざまな実施計画等の検討をしながらですが、指定管理が前提で観光交流センターの運営が計画されるというふうなことは、前提はおかしいかなと。やっぱりこれは一つの交流の広場とはいえ、終始市民の税金を無駄に使わないという観点から言うと、当初の計画どおりに進むというのが私の基本的な考えでありますので、今後も議論を続けたいと思います。以上で質問を終わります。

○渋谷佐輔議長 ここで暫時休憩します。再開は午後3時20分といたします。

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

○渋谷佐輔議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

渡部秀樹議員の質問

○渋谷佐輔議長 順位10番、議席番号7番、渡部秀樹議員。

(7番渡部秀樹議員登壇)

○7番 渡部秀樹議員 このたび初当選させていただきました中央地区十日町の渡部秀樹と申します。

初質問であります。私にとって、この壇上に

立ち、質問させていただくことはこの上ない喜びでありまして、当然ながら緊張もしており、身の引き締まる思いであります。もちろんふなれな点もあるかと思いますが、市民の負託に応えられるよう努力し、精進いたしますので、よろしく願いいたします。

さて、この東西に長い日本列島も九州地方から徐々に入梅し、この東北地方の長井、置賜地域にも梅雨前線が押し寄せてるようですが、この季節、きょうのようなつかの間の晴れた日には、この長井のまちは澄んだ青空のもと濃い緑に包まれ、とても美しい光景が広がっております。

また、田植え直前の早朝の田園地帯を見渡しますと、これがまた美しい光景でありまして、水をたたえた水田が静かな海のように、海辺に囲まれた山居の家々が小島のように見えまして、まるで日本三景松島の八百八島のようにまことに美しい風景であります。このような美しい景観をいつまでも後世に残していきたいと、そう思っております。このすばらしい長井市の観光資源の一つとして捉え、観光に來られたお客様にもぜひ見ていただきたいと思う次第であります。

また、先日、市内東町にありますおらんだ市場菜なポートに新鮮な地元のお野菜を買いに行ったところ、とてもみずみずしく、おいしそうなお野菜がびっしりと並んでおり、鮮度を求めるお客様で大変にぎわってございました。

私がひときわ目を引かれたのがムラサキアスパラというアスパラでありまして、そのムラサキアスパラと、そのムラサキアスパラの紹介ポップがあったのですが、そのムラサキアスパラの紹介ポップにこう記載されておりました。ムラサキアスパラはビタミンが多く、ポリフェノールの一つでありますアントシアニンが従来のグリーンアスパラの約10倍とありました。

アントシアニンは、老化防止やコレステロー

ルを抑えるのに大変効果的であると言われております。サプリメントでもアントシアニンは摂取できますが、せっかくおいしく栄養がとれるのですから、地元のムラサキアスパラを食べ、おいしく健康に頑張ろうと思い、購入してまいりました。こういった購入意欲の湧く一言というのは、とても大切だと改めて感じる次第でありました。

それでは、通告に従って質問させていただきまます。通告は3項目ありますので、順次質問させていただきますので、それぞれ答弁いただきますようよろしくお願い申し上げます。

1点目は、交流人口の拡大であります。

現在、長井市の観光客数は、平成25年度の統計によりますと約67万人でありまして、4月が5万8,500人、5月が23万2,200人、6月が10万2,500人、7月が3万5,700人、8月が12万2,100人、9月が2万3,700人、10月が2万3,800人、11月が1万8,000人、12月が1万4,800人、1月が1万2,500人、2月が1万2,900人、3月が1万3,700人となっております。

この数値は、4月のさくら回廊事業、5月の白つつじまつり、白つつじマラソン、黒獅子まつり、6月、7月があやめまつり及びその関連事業、8月が水まつりとお盆の帰省客の関連による観光客数がメインと思われまます。

また、本年4月のさくら回廊事業については、3月14日に北陸新幹線が北陸の雄であります金沢市までの運転延長を延ばしたことも大きく影響してと思われまますが、少し苦しい状況だったかと思ひます。しかし、本市の受け入れ体制も毎年強化されておりますので、来年以降は回復してくるのではないかと期待しております。

5月の黒獅子まつりですが、私も毎年獅子舞のほうで参加させていただいております。ことはタイムキーパーとして時間管理と行列管理をさせていただいておりましたが、その中、幕の外に出ておりますので大変よく見えました。

大変なにぎわいであったと記憶しております。よくぞここまでのイベントになったものだと、育てていただいた市民の方々、そして関係各位に御礼申し上げる次第であります。

6月のあやめまつり関連事業につきましては、先日開園いたしました、ことしも各団体がおもてなしの心もちまして各種イベントを準備いたしましてお待ちしておりますので、ご期待申し上げます。

さて、私が注目しているのは、完全な冬場の12月から3月の観光客数でありまして、この寒く厳しい冬期間に1万2,000から1万3,000人ものお客様があるということです。つまりは1万2,000人から1万3,000人もの交流人口がこの長井市には潜在的にあるということでありまして、逆に言いますと東北地方の各市町村が得意としております9月下旬、10月、11月上旬の秋の行楽シーズンに観光に来られるお客様の伸びが非常に少ないということでもあります。

秋の行楽シーズンは、紅葉観光、温泉観光、そして秋のおいしい味覚がポイントになってくるとも、この長井市にも十分にチャンスのある観光のハイシーズンかと思えます。

現在、10月に行われます縄文まつり、祝瓶市民登山、葉山清掃登山、長井市民マラソンという魅力的なイベントはあり、参加者も十分におられますが、東北の他の市町村に比べると大変低調な数値だと思って見ております。この秋の行楽シーズンに少しでも多くのお客様に来ていただくために、さらに戦略的にしかけていく必要性を感じておりますが、市当局ではどのようにお考えでしょうか。この件に関しては、商工観光課長に答弁お願いいたします。

2点目は、行政組織内の情報の共有化についてであります。

ことし4月1日付で改正されました長井市の行政組織ですが、組織業務再編により、単一の課内、または新たに新設されました各参事の掌

握課内の業務に関しては、その流れは非常に良好であると感じております。しかし、各参事の掌握課内以外の複数の課がかかわるような業務におきまして、横の連絡が少し少ないのではないかと感じております。例えばですが、観光と名のつく業務に関しては、または観光にかかわるような業務、事務分掌に関し、商工観光課へさまざまな情報提供、事務連絡等が必要になると思われま。そこで実際の事務の流れ、横の連絡についてどうなっているのか、お聞きしたいと思えます。この件に関しては、このたび行われました行政改革に伴うことでもありますので、総務課長に答弁お願いいたします。

3点目は、観光交流センター「かわと道の駅」の想定収支についてであります。

この件に関しては、ほかの議員の方々からも何点かありましたが、この数値に関しては、さきに行われました産業・建設常任委員会協議会で示されました観光交流センター「かわと道の駅」MD計画提案によるものですが、総売上目標1億6,382万5,000円に対し、直売所収入が2,178万円、粗利益で15%。物販収入280万円、粗利益で35%。飲食収入425万円、粗利益40%。そして指定管理料が3,490万円、収入合計が6,373万円となっております。これからすると、総収入想定額の約55%が指定管理料が占められることとなります。いかにまちなかに経済効果をもたらすための施設とはいえ、多額の税金を投入し建設する施設として想定収入の合計額が6,373万円に対し、指定管理料が3,490万円、それでようやく黒字になるというMD計画提案の想定収支バランスをどのようにお考えでしょうか。

また、全国にあります道の駅の総数は1,059カ所あるようですが、東北では146カ所、うち山形県は18カ所、青森27カ所、岩手31カ所、宮城12カ所、秋田30カ所、福島28カ所です。全国、そして東北にこれだけの施設がつけられれば勝

ち組と負け組となるのは当然ですが、国土交通省のホームページでは、道の駅のモデル6カ所の紹介があります。地域活性化の拠点として特にすぐれた機能を継続的に発揮していると認められる全国的なモデルとして成功を上げ、多く周知されている施設になります。

1つは、岩手県遠野にあります道の駅遠野風の丘でありまして、広域防災の拠点として高度な防災機能を分担しております。防災の拠点としては、東日本大震災におきまして、復旧支援、自衛隊、消防隊の、またボランティアの後方支援の拠点として機能いたしました。産業振興の拠点といたしましては、沿岸被災地の海産物を販売する生鮮店を開設し、被災地の復興に支援しているようです。観光や地方移住等総合案内の拠点、観光案内所では沿岸地域の観光振興に向け情報発信、ふるさと納税の紹介、納税者は道の駅の特産品を提供と。

2つ目の施設は、栃木県茂木町にあります道の駅もてぎ。真岡鉄道のSLやサーキットなどの地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェー機能。ここのホームページを見ますとファンクラブがありまして、もてぎすきだっぺクラブというものです。茂木町を訪れます全ての人にもっと茂木を好きになってもらいたいと、そんな思いから茂木のファンクラブ、もてぎすきだっぺクラブは結成された。当然入会するとさまざまな特典が用意されているようです。

3つ目は、群馬県川場村にあります田園プラザ川場であります。農村プラス観光で、人口約3,700人の村に年間120万人来訪し、リピート率は何と7割という驚異的な数値を出しております。

4つ目は、千葉県南房総市、道の駅とみうらであります。観光資源のビワ等をパッケージ化し、都市部の旅行代理店に販売しております。道の駅を核とした6次産業化、道の駅が中心と

なり、特産のビワを加工、オリジナル商品を何と50種類と開発、販売しております。地域固有の観光資源をパッケージ化し、観光ニーズを呼び込み、観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売していると。なぜそんなことができるかということ、道の駅自体が旅行業の免許を取得しております。また、地域伝統文化の継承、交流のための取り組みをしております。この土地には、とみうら人形劇など地域の伝統文化を継承する場としても活用されております。

5つ目は、山口県にあります萩市、道の駅萩しーまーとであります。地元業者とともに魚の加工品の開発、その商品は究極のお土産等の賞を受賞しております。調べますと、さまざまな賞を受賞しているようです。ホームページは、新鮮な萩地区の海の幸、山の幸を萩の海の手という漁港で直結立地して、観光客の皆様へ提供しているとありました。

6つ目は、愛知県内子町の内子フレッシュパークであります。地元農家を中心となった商品開発、町内の農産物販売額の約15%を占めるという販売力であります。四季の農産物にあわせて加工商品を開発、販売し、内子町内の農産物販売の、さつきもありましたが15%を売り上げると、相当な数値ですね。また、農産物として今とても大事なITを導入しております。コンピューター管理により鮮度を追求することで、安全で安心な農産物提供システムを構築し、出荷する地場農産物にトレーサビリティやPOSシステムを導入、販売情報が連絡され、在庫に合わせて出荷者が直接納品することで鮮度を向上、その追求をしております。

なるほどモデルに指定されるだけの要素があるなと思いました。長井市が目指すものは何か、イメージできるようになればいいなと思えます。この件につきましては、商工観光課長、答弁お願いいたします。

壇上からの質問は以上になります。よろしく

お願いいたします。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 川村直人商工観光課長。

○**川村直人商工観光課長** それでは、私のほうから渡部秀樹議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず、1点目、交流人口の拡大についてでございます。

現在、当市の月別観光客数で入り込み数の少ない月の観光客数をふやしていくための戦略的なしかけの必要性を感じているが、市当局ではどのように考えているのかというご質問でございました。

渡部議員のご指摘のとおり、当市への観光客につきましては、4月のさくら回廊まつりに始まりまして、白つつじまつり、そして7月上旬までのあやめまつり期間、そして8月の水まつりが主な集客の時期でございまして、それ以降につきましては極端に集客力が落ちている状況でございます。

このため、長井市といたしましても、平成24年度に長井市観光振興計画を策定いたしまして、今後10年間の観光振興方針を示してございます。最終目標といたしましては、交流人口をふやす、そして地域を活性化させて産業の振興と雇用の創出へつなぐということといたしてございます。基本となる戦略といたしましては、一年中お客様に来ていただけるような魅力あるまちづくりをするということでございます。特に長井市の観光資源でございます水と緑と花、舟運で栄えた文化をさらに磨き上げまして、まちの魅力をさらに高めることとさせていただきます。また、地域の産業と観光を結ぶこと、お客様に来ていただく仕組みづくり、お客様を受け入れる仕組みづくり、そういったものを構築することを掲げてございます。

この基本戦略に沿いまして誘客を拡大してまいります。ご質問がありました秋の行楽シーズンの戦略についてお答えをさせていただきます。

す。

この時期につきましては、お祭りとしては大きなお祭りもなく、誘客が低迷していることは事実でございます。対策といたしましては、これまで活用し切れていなかった資源を活用していくことがまず考えられます。長井市のほうには朝日連峰に代表されます原生林、そしてすばらしい紅葉がございます。その紅葉が映える野川溪谷、県内最大規模の長井ダム、そしてその周辺にございます、ながい百秋湖、三淵溪谷、そして21世紀不伐の森、そういった景観などすばらしい資源がございますので、これを生かした観光を進めていきたいというふうを考えてございます。

また、まちなかにおきましても、地域の特色でございます水と舟運で栄えた町並みに映える紅葉のスポットをもみじ回廊ということで広報してございますが、引き続きまち歩き観光として力を入れてまいりたいと思っております。

このような市内観光につきましては、DC、デスティネーション・キャンペーンで培いました置賜管内の連携を特に生かしまして、議員からご指摘がありましたように、SNSを活用した外国人向けのインバウンドにも取り組んでいきたいというふうを考えてございます。

そして、これらの観光事業を進めるためには、事業を実施する仕組み、そしてお客様を受け入れる仕組みが必要になってまいります。お客様にわかりやすいワンストップの窓口をつくる必要があることから、現在、市民や市内事業者で構成いたします、仮称でございますが観光地域づくりプラットフォームの構築に向けて準備を進めているところでございます。

このプラットフォームでは、お客様の受け皿整備と、外へ対しての情報窓口、そしてお客様と市民をつなぐ機能を充実させまして、市内への誘客を機能的に実践できる仕組みをつくり上げるものでございます。昨年度に準備会を発足し

ておりまして、平成28年4月1日から事業が開始できるように現在、準備を進めているところでございます。また、この機能が十分発揮できるように、来訪者への玄関となります観光交流センター内に観光案内所を設けまして進める予定としてございます。

続きまして、観光交流センター、かわと道の駅の想定収支に関係しまして、観光交流センター、かわと道の駅MD計画提案で示された数値について、どのようにお考えかというようなご質問に対してお答えをさせていただきます。

先ほど建設参事のほうからも答弁がございましたが、MD計画案の事業収支につきましては、都市再生整備事業を活用する必要上、経営基盤となります菜なポート並びに多数の物産館等の面積との比較から、極めて慎重、そしてかつ少な目に想定しているものでございます。現状の売上実績、そして今度移転することによります立地環境の変化等によりまして、そういった観点から考慮しますと、指定管理料の圧縮、さらには施設管理料等を賄えるレベルまでの収益は可能であるのではないかとこのように考えてございますので、こちらについては健全な経営に向けて努めてまいりたいというふうに思っております。

また、観光交流センターにつきましては、まちの中で現に商売を営んでいらっしゃる方々、さらには新たななりわいを起こされる方々、そういった方々の収益に結びつけるということを最大の目的としてございます。ほかの市町村にあります、いわゆる道の駅につきましては、市街地と離れた郊外に立地をしてございまして、その場所で収益を上げるということを目的としてございますが、市街地に隣接する長井市の観光交流センターにつきましては、まちなかのポータル、つまりまちなかへの玄関口としての役割を果たすものというふうに考えてございます。近隣のいわゆる道の駅を持つまちと長井市の大

きな違いにつきましては、長井市のほうには市街地に5つの商店街がございまして、営業されておられる事業者の方々が多数おられることがございます。市民の方々の日常生活面での役割はもとより、こうした商店が観光交流センターからのまちなかへの誘導によりましてさらに魅力あるものになるように、行政としても一体となって商業の経営機会の創出を図ってまいりたいというふうに考えております。

さきにもご説明いたしましたように、この具体化につきましては、観光地域づくりプラットホーム事業によりまして、実現に向けて努めてまいりたいと思っております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 齋藤環樹総務課長。

○**齋藤環樹総務課長** 私のほうからは、ご質問の2番目、行政組織内の情報の共有について、4月に改正された市の行政組織で複数の課がかかわる業務において横の連絡が少ないのではないかと、実際はどうなのかということについてお答え申し上げます。

初めに、このたびの組織の見直しに至った経過等も含めまして、若干お時間をいただいて改めてご説明をさせていただきたいと思っております。

市の行政組織につきましては、これまでも大課制や部制、課・室制を導入するなど、時々々の行政需要に対応するため組織機構を変えてきております。ここ数年におきましても、少子高齢化における子育て支援や高齢化対策、まちのにぎわいづくりに向けた中心市街地の活性化や観光振興、社会資本整備事業や、生涯学習プラザ運動公園整備事業など、新たな行政需要に対応するため、事業の目的ごとに組織を再編し、権限を持った課長を配置することで、早い意思決定ができる機能的な組織としてきたところでございます。

具体的に申し上げますと、平成21年度は水道事業所を廃止しまして、上下水道課を新設して

おります。平成22年度につきましては生涯スポーツ課を新設、平成23年度につきましては5つの課を新設し、2つの組織を廃止しております。新設した課につきましては、1つは商工振興課、2つ目は観光振興課、これは商工観光課を2つに分離した先ほどのご説明申し上げた趣旨、それから3つ目の新設課といたしましては、まち・住まい整備課、これにつきましては建設課から都市計画、それから社会資本整備関連事業を推進する必要があるということで新設しております。それから、4つ目、5つ目の課といたしましては、4つ目、福祉生活あんしん課、5つ目は子育て支援課ということで、従来、福祉事務所で1つの組織でございましたけれども、その分掌事務を機能をもとに2つに分けたところでございます。

それから、廃止しました2つの組織というのは、商工観光課につきましては、商工振興課と観光振興課に分離しましたので廃止と。それからもう一つは、財政課所管であった土地開発公社、これにつきましては健全化計画を達成し、平成22年度で清算したということで、23年度から廃止となったところでございます。

しかしながら、その後、当時の組織についてのその後ですけれども、課題が大きく2つほど見えてきたということがございます。1つは、組織が細分化されたことで横長の組織となり、厚生、産業、建設など部門内、部門間でのつながりが希薄となりまして、それに加えて庁舎が7カ所に分かれているということもございまして、連携、調整、チェック機能が不足する傾向が顕著になってきたこと。2つ目ですけれども、昨年3月に策定した第5次総合計画を効果的に推進するため、部門を超えて横断的に連携をとる必要があります、さらには地方創生に関しても事業計画の企画立案、決定推進について、市政全般的な視点からの調整も必要となってきたところでございます。

こうした課題に対応するため、組織機構の見直しに向けて3つの基本方針のもと、見直しを行ったところでございます。1つは、わかりやすい組織機構、2つ目は、効率的で利便性の高い組織機構、3つ目は、横断的で機能的な組織機構を基本方針といたしまして、係長の皆さんや課長の皆さんへのヒアリング、そして庁議での検討などを重ねた結果、このたびの改正となったところでございます。

その概要について簡単に申し上げますと、課制を維持しながらも、市政全般的な視点から政策決定機能、政策調整機能を充実・強化する機構を創設するとともに、より効率的な組織とするため、課の再編、新設、統廃合を行ったものです。

具体的なポイントは3つほどありまして、1つ目は、何といたっても参事の設置でございます。市長部局を総務、厚生、産業、建設の部門に分けまして、各部門に参事を置きまして、参事は部門内の事業を掌握すると。参事は、部門のみならず、部門を超えての重点戦略等を実施するための事業調整を行うと。また、教育委員会教育長、それから議会事務局長につきましては、それぞれの組織において参事と同様の役割を担うということになってございまして、参事につきましては、行政運営の基本方針や重要施策について市政全般的な視点から企画立案、決定推進するため、市長を中心とした少数幹部による経営戦略や政策調整等を行う組織、具体的には参事会等を設置するというようなところでございます。

それから、2つ目の特徴点ですけれども、課の新設、統廃合を行っております。新設の課につきましては、2つございます。1つは、総合政策課でございまして、3月までの総務課の秘書、広報、行革部門、さらには市民課の市民相談部門、それから企画調整課の総合計画等に関する事務のところを集約いたしまして、総合計

画の進捗管理、政策調整機能を担い、広報広聴機能も一元化して情報の収集、発信を行うことを目的としたものでございます。

2つ目の新設課は、教育総務課でございまして、旧管理課の教育委員会事務局の機能、それから学校関係の施設整備、維持の部門を担当しまして、教育委員会の学校教育、文化、生涯学習、スポーツなど幅広い施設の調整を行いつつ、また学校給食調理場もその分掌事務となっております。

それから、統合につきましては、2つの課がございまして、1つは商工観光課でございまして、商工振興課、観光振興課に分かれていたものを1つにまとめると。それからもう一つは建設課ということで、3月まで建設課、まち・住まい整備課ということで分離しておりましたが、これも統合すると。その目的は、産業振興や公共事業の整備など関連性が強く、一体として取り組むほうが効率的であることから、課の統合を行ったものでございます。

それから、配置、分合ですけれども、2つございます。1つは、企画調整課が地域づくり推進課になりました。旧企画調整課から総合政策課に移行した事務を除いて担当しております。それから、もう一つは管理課でございまして、管理課から学校教育課ということに変更になってございまして、旧管理課から教育総務課に移行した事務を除き担当している。

それから、最後に名称変更が2つの課がございまして、1つは、福祉生活あんしん課が福祉あんしん課、2つ目が、子育て支援課が子育て推進課、それぞれわかりやすい名称に改めさせていただいたものでございまして、この2つの課の新設、統廃合のところで結果として課の数は24から22に変更になったところでございます。

それから、3つ目は室・係の見直しということで、3月まで5つの室、46の係がございましたが、6つの室、46の係となったところでござ

います。

先ほど情報共有というお話がございましたが、このたびの組織見直しの眼目の一つが、部門内及び部門間の情報の共有や連絡調整機能の強化でございまして、そのために新たに参事を設置し、毎月の参事会や庁議等で重要事項の協議や部門間の連絡調整を図っておりますとともに、毎月開催している部門ごとの部門会議で、部門内の連絡調整を行い、さらには、これまた毎月行っている課長・主幹会議でも連絡調整を行っているところでございます。

参事の役割について、もう少し砕けた言い方をしますと、縦割り組織ではどうしても組織と組織の境界領域なんかで見落としや漏れが発生するというのもございますので、参事には市長、副市長の目や耳となって、全庁的な視点から必要な目配り、心配りをさせていただくということかなと考えているところです。

渡部議員のご質問にあった観光業務につきましては、毎年恒例の事業でありまして、関係課では、必要な連絡調整は、関係者の打ち合わせ、庁内文書や庁内LANなどを通じたやりとり等で相互に連絡調整をし、必要な連携を行っているものと考えております。

また、観光イベント情報などにつきましては、毎月開催している課長・主幹会議などで、各課職員への周知等を依頼するとともに、庁内LANなどで情報を提供し、職員間での情報の共有を図っているところでございます。

なお、組織機構は社会情勢や庁舎スペースなどで、与えられた条件の中で、その時々最適な構造を求める必要がございまして、今後も見直しを継続していかなければならないと思っております。組織活性化のためには、事務事業の整理統合、廃止や事務処理方法の不断の見直しとともに、あわせて職員の資質向上のための人材育成の取り組みも必要不可欠な課題であると思っております。このたびの組織改正の

所期の目的を達成するため、個別の課題がもしあるとすれば、適時適切に所要の調整対応を行いながら、適正な運用を図っていきたいと考えております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** まず、3点目の観光交流センター、かわと道の駅の想定収支についてですが、他の道の駅とは違い、長井市独自の道の駅のあり方をという形で事業が進んでいるという、ざっくり言うとそういう説明だったかと思えます。ですが、何々県何々市の〇〇道の駅を、こういう業務に関しては、こういう部分に関してはモデルとしている、こういう部分に関してはこういうところをモデルにしている、そしてここは長井市独自でこのようにやっていくんだよというような、ある程度ざくっとしたイメージがあったほうがわかりやすいのではないのかなと。まして、その後の評価基準、評価基準は売り上げだけじゃありませんので、その評価基準に関しても、後に少ししやすくなるのではないのかなと思っております。

そして、MD計画提案についてですが、さきにご質問をいただいた議員さんもいっぱいおりましたけども、課長のおっしゃることもわかります。しかし、MD、マーチャндаイジングという名のつく計画である以上は、ちょっと数値のほうが気になるというところがあります。MDには、組織内の現状把握、目線統一、共通認識、また商売である場合、そのメーカー、卸業者、小売業者が一丸となる共同チーム活動というのがMDの言葉の中に含まれます。ですから、観光交流センター、かわと道の駅の場合、生産者と販売側、市民と行政の協働で行う現状把握、目線統一、共通認識となります。

そして、菜なポートの近年の売り上げが1億6,000万円ほどある状況に対し、観光交流センターの直売所の想定額が1億4,520万円ほどになると思います。つまりは、約1,600万円ほど

の農産物が余るという計画を立てたことになります。私は、1,600万円ほどお野菜と、一生懸命おいしいお野菜を育てた生産者の顔がちょっと目に浮かんだんであります。ここは目線統一、共通認識ということではありますけども、恐らく面積比が主に使われた比率だと思うのですが、約90%の面積であったので、約90%ほどの売り上げ目標を立てて、1割減としたと思えます。ですが、生産者や数字だけの問題ならいいんですけども、生産物、生産者の気持ちを考えますと、ここは、この部分だけは100%でいってもよかったのではないかと思います。

また、先ほど経営努力により、指定管理料の圧縮が可能であると。また、先日、市長より指定管理業務の中には、売り上げ、利益を生まないうさまざまな業務があると。行政機関というような仕事もあるのでしょうか。ということなので、指定管理料を、完全な固定経費Aと、経営努力により減らすことができる経費Bに分け計上することにより、よりフィットする、現状に一致したMD計画の数値が出るのではないかと思います。いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人商工観光課長。

○**川村直人商工観光課長** 渡部議員のご質問にお答えをいたします。

議員おっしゃるように、ここの指定管理料については、さらに精査をする必要があると思っておりますので、今後、関係課と連携をしながら、ここについてはもう一度見直しをかけていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 計画というのは常に精査して現状に合わせていくこともまた必要になってくると思いますので、よろしく願いいたします。

例えばなのですが、直売所の粗利益ですね、この15%と固定するならば、2億8,860万円ほ

どの売り上げがあれば、指定管理料2,000万円で経営ができるんですね、例えばですが。総売り上げ4億円以上あれば、指定管理料を必要とせずに経営できるような施設になるわけです。観光交流センター、かわと道の駅の骨子からはそれるかもしれません。補助対象の骨子からそれるかもしれませんが、とても魅力的な数字だと私は思います。いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人商工観光課長。

○**川村直人商工観光課長** 渡部議員のご質問にお答えをいたします。

観光交流センターにつきましては、先ほどご答弁をさせていただきましたように、ここでの収入、つまりプラスの収支を直接の目的としたような施設ではございません。その部分についてはご理解をいただきたいというふうに思います。

なお、今、それぞれ収入に関する粗利の部分についてお話がございましたが、私どもにつきましても、人件費等も含めまして、必要な経費等もう一度見直しをしながら、指定管理料がゼロになるような努力を進めていきたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 商工観光課長のおっしゃることは理解できました。さまざまなデータのもと精査して、実際の経営のほうをしていただきたいと思う次第であります。

それで、2点目の行政組織内の情報の共有についてですが、総務課長のおっしゃるとおり、少しずついいほうに進んでいて、その改革がなされて、それが順調に広まっていく間の期間に私が見たんだと、そう思います。しかし、どこの行政でも、どこの組織でも、これは課題となる案件であると思いますので、各課がお互いにカバーし合えるような雰囲気づくりを、市長、参事、各課長、皆さんの力を合わせまして、日

本に誇る長井市の行政はこういう行政であるよというような雰囲気づくりを定着させていただけるよう期待いたします。

それでは、1点目の交流人口拡大についてであります。

商工観光課長の答弁のほうを聞いておりました、なるほどなと思う点と、ご提案したいなと思う点がありました。確かに第5次総合計画にあるような観光地域づくりプラットフォームが機能し始め、観光交流センター、かわと道の駅が完成すれば、人材組織の育成、観光情報の戦略化、体験型観光のプログラムづくり、恐らく可能になるでしょう。そして、観光客数をカウントする拠点がふえます。外にも、内外的にもかわと道の駅、観光交流センターのほうがPRが始まりますんで恐らく観光客数はふえると推測されますが、少し提案させてください。

長井市がこれからどのような観光事業、それを展開するにせよ、都心でのプレゼンテーションは活発に行ったほうがよいと感じております。東京都の大田区蒲田でもいいでしょう。また、新宿や渋谷といった若者のまち、そして東京駅、たまには仙台市勾当台など、さまざまところでPRしていくべきではないかと思えます。ポイントとして、よく映像を使うんですが、よく行政が使う手法って1枚のDVDに全て載せてしまうんですね。そうすると、自分の興味のない分野になると気持ちが離れて、目を離してしまうんですね。そこで、民間のPRなんかでよく使うパターンが、各ジャンルのDVDを1枚ずつつくるんですね。観光でいいますと、美しい自然、あとは長井ですと、にぎやかなお祭りですね、おいしい食、文化財、その一個一個、1枚ずつつくりまして、それを同時並行で流して、興味あるところに立ってみると。音声に関してはヘッドホンを使いまして聞くこともできますし、ちょっと空間があれば、少し音を下げると同時に流すこともいいでしょう。どこでも同

じことをやっていくと、最終的に人口の多いところのPRが勝つと。東京都のPRが一番上手ですね、それは間違いないことなんです。なんですが、そこに分け入ってPRするためには、そのぐらいの戦略が必要になってくると思います。

また、長井市くらいの豊富な観光資源があれば、今でもやれておりますけども、旅行雑誌や観光エージェント、新聞社などとの提携により、モニターツアーや実際のツアーが十分募集可能だと思います。必要ならば、そのための専門部、専門チームをつくり、年間20回を目標として調査、研究、実施、検証を繰り返しながら、それにより長井市の魅力を発信し、再確認していくことが目標になります。もちろん、職員教育の中にも大きく反映していきますので、ぜひこれはやっていただきたいと思います。

それから、長井市の観光資源、先ほども商工観光課長からありましたけども、もみじ回廊がありましたけども、それに秋といえば気温も下がってきて、だんだん食事がおいしく食べれる季節になっていきます。例えば、食のスタンプラリーというのも、スタンプラリーって古い手法なんですけども、息の長い手法で、いまだにやられております。スマートフォンの利用により、新たな形でやっている行政もあります。

山形県といえばラーメン消費量日本一という、毎年テレビでも取り上げられますけども、その中で長井市のラーメン屋さんのクオリティーはとて高いです。さきに行われた情報番組のほうでも、そのように特色が上げられていると思います。もちろん景品など特典をつけたほうがいいでしょう。また、ラーメンの食べ歩きの場合、9月を待たずに、8月29日、馬肉の日ですね、この日ぐらいから開催して、期間を設けてもいいと思います。長井市内には馬肉ラーメンもありますので、天高く馬肥ゆる秋ともいいますので、これもよろしいんじゃないかと思いま

す。

また、長井市内には、気づいている方はおると思うんですけども、大変おいしいお菓子屋さんが多いんですよ。この人口、このまち規模で、これだけのお菓子屋さんを持っている行政はそうそうありません。ですから、和菓子等のお菓子の買い歩きのスタンプラリーなんかもおもしろいと思います。これは、ラーメンとあわせてまち歩きとの連動企画が可能で、コーディネート次第で十分結果が出せる企画になると思います。

さらに、長井市が誇る全天候型観光施設、山形鉄道フラワー長井線ですね。天気に関係なくお客様が呼び込めます。それとあわせることによって、フラワー長井線の車窓から美しく色づく山々や、風に揺れる黄金色の稲穂を見るだけでも、観光客からすればとても満足いくものになります。これは観光用語で言うとシーニックバイウェイと言うんですけども、平たく言うとドライブみたいなものがそうなります。車窓風景ですね。それとスタンプラリー、そしておいしいものを食べたり買ったりして、四季動いていく、秋深まっていく長井の美しい町並みを歩くという一つの商品が、ここで完成できるんじゃないかと思います。

先ほどもありましたが、そして忘れてはいけないのが山岳観光、どうしても少し整備がおくれているものになってしまうんですけども、危険も伴うものなので、登山道やトレッキングマップ、そして登山道の標柱ですね、これは整備したほうがいいと思います。市内には昔から愛される葉山や東北のmatterホルン、祝瓶山、物すごくファンが多いです。祝瓶山は交通アクセスがちょっと困難な山なんです。それゆえ熱烈なファンが多い山でもあります。自然レベルは最高レベルです。ダム湖に映る祝瓶山はとても美しいですね、山から下山してそれを振り返ったとき、西日かかりましてとても満足が得

られると思います。そういった画像で残してPRすることも大事なんで、山を登るのはきつんですけど、こっだけ困難な道をくぐると、この風景が見れるというようなパッケージですか、売り込み方も必要になってくると思います。

また、長井市内には、山の知識にたけた登山ができる方、登山ガイドの方々も大勢おられますので、ぜひお知恵をかりるべきだと思います。

さらには、先ほどありましたが、シーニックバイウェイと、長井の美しい田園地帯と長井ダム、百秋湖の周りのドライブですね、簡単な形の観光なんですけども、こういった大量に人が入ってこれるタイプの観光もやっていく必要があると思います。深い観光が必要でしょう。しかし、ドライブで回ってくる。この辺ですと会津のほうからも十分ドライブで来るんですね。会津といえば観光のへそになっている、東北でも観光の要衝です。そこからその10%も来てほしいというわけじゃないです。数%、でも数値からすると、100万人に到達するには、数値上、会津の0.21%ほどいただければ、長井市の観光客数総数100万人に優に到達できるんです。そのぐらい会津地方には観光客が来ております。ぜひ、難しい観光の手法も大事ですが、こういった見た目に美しい風景ですとか、わかりやすい観光もやっていく必要が、PRしていく必要があるんじゃないかと思います。

もちろんダム湖の利用もあわせたほうがいいでしょう。ボートですね、ラフティングがきっかけでも、湖面に映る美しい景観ですね、必ずや観光客の心をつかむ力があると私は思っております。

時間も大分経過していますので、以上になります。商工観光課長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人商工観光課長。

○**川村直人商工観光課長** 渡部議員からご提案も含めてございましたので、それにお答えをさせていただきます。

都心におけるプレゼンテーションをとということですので、私どもで持っております長井市東京事務所をベースといたしまして、首都圏、その他大都市等に情報発信を積極的にしていきたいというふうに思っております。

あと、議員のほうからございました長井のさまざまな魅力の創造と構築につきましては、先ほど私のほうで説明をさせていただきました長井市観光地域づくりプラットホームということで、食であったり、文化であったり、人であったり、場所であったりということで、そういった長井市の財産を組み合わせた商品化というものを目指す組織でございますので、そういったことで商品化に向けて努めてまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** ありがとうございます。頑張ってください。

以上でございます。ありがとうございました。

散 会

○**渋谷佐輔議長** 本日はこれをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 4時20分 散会